

学校教育目標

学校図書館は、教育課程の展開に寄与するとともに、児童の健全な教養を育成することを目的とする

よく学ぶ子
思いやりのある子
体をきたえる子

多くの児童が本好きで、読書量も増加しているが、調べ学習等で図書館を利用する機会は少ない。

学校図書館の目標

学校図書館の活用を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育て、生涯学習の基礎を培う

ね ら い

- ① 児童の読書意欲を盛んにし、豊かな心情と幅広い知識を身につける。
- ② 学び方指導を充実し、図書館活用の望ましい態度や技術を高める。
- ③ 多様な資料から目的に応じた情報を選び、課題解決を図り、情報活用能力を育成する。

指導の重点

- ① 教育課程全体を通して、計画的な読書活動と学校図書館の活用を推進する。
- ② 学校図書館を活用した教科等の学習の充実と情報活用能力の育成を図る。
- ③ 司書教諭を中核とした学校図書館教育の推進を図る。

各学年の重点目標

第一・二学年	・身近な生活や学習体験の中から疑問を見付ける。 ・興味関心に応じた様々な種類の本を読み、見付けたことや思ったことを書いたり、伝え合ったりする。 ・朝読書では、読み聞かせを通して、読書の素地形成を行う。また、読書クイズや読書発表会などを行い、児童同士の交流を図る。	第三・四学年	・身近な生活や学習体験（見学や地域の方の話などを含む）から関連付け、疑問を見付ける。 ・百科事典や図鑑など、疑問に合わせた資料を選び、要点「情報カード」などを活用しまとめ、「思考ツール」を活用して比較・分類を行い、まとめる。 ・様々な種類の本を読む。	第五・六学年	・身近な人、社会や自然に関わる様々な事象と自らの経験を関連付け、解決の見通しを立てられる問題を設定する。 ・目的に応じて本を選び、必要な情報を選んで整理・分析・記録する。学習を通して学んだことや自分の考えについて表現方法を工夫してまとめる。

具体的な取り組み

〔各教科〕

- 図書館機能を活用し、課題解決学習、調べ学習、個別指導やグループ学習の場とする。
- 情報の収集、処理等、情報活用能力を養う。
- 読書指導を行い、読書習慣、態度を養う。

〔読書科〕

- 図書館資料を活用した探究的な「調べる学習」を行い、情報の収集の仕方、記録の取り方を身に付け、集めた情報を整理・分析し、自らの考えをまとめ、表現力を養う。

〔総合的な学習の時間〕

- 学び方や考え方を身につける。
- 課題の解決、探究に主体的に取り組む。
- 系統的に情報活用能力を育成する。

〔特別活動〕

- 図書委員会を中心に、自発的・自治的に図書館を運営し、読書活動推進を展開する。
- 特別活動の中で積極的に図書館を活用する。

〔道徳〕

- 図書資料を通して、様々な生き方や考え方に接する中で、自分を深め、道徳的心情を培う。

〔家庭・地域との連携〕

- 読書週間による親子読書の推進。
- ボランティアや公立図書館との連携。

朝 読 書 の 推 進

推進組織の確立・充実

図書館経営評価の実施

図 書 環 境 整 備 ・ 充 実

区立図書館・区立図書館員との連携